第343号
発行日 令和８年11月１日
● 発 行 ●
太地町公民館

ブルーム派遣事業・報告会

令和八年度の「太地町まちのカレンダー」を見ると、四月には「セント・メアリー一行のみなさん　ようこそ太地町へ」と書かれた歓迎レセプションの写真があり、九月には「太地町在住中学生のブルーム訪問」の写真があります。太地町はオーストラリアのブルームと昭和五六年（一九八一年）に姉妹都市提携を締結し、平成二〇年（二〇〇八年）からは青少年交流事業による定期的な来訪・訪問を行っています。

令和八年度は七月三十日から八月十日まで太地町在住中学生が訪問団として、ブルームに派遣されました。訪問団は現地の学校であるセント・メアリーズ・カレッジとの交流や二十世紀初頃に真珠産業のために、和歌山県民が移住した日本人墓地を訪ねる等、ブルームの歴史や文化について学びました。九月十日には太地町公民館において訪問した中学生による報告会が行われました。その際に提出していただいた報告文を一部紹介します。

たくさんの貴重な体験

太地中学校三年　堀端　咲希

この夏、ブルームの派遣事業に参加できたことは、私にとって貴重な経験でした。その中で印象に残ったことが、三つあります。

一つ目は、飛行機の旅です。特に行きと帰り合わせて、六回も乗ったことに驚いています。私は国内線にしか乗ったことがなかったので、長いフライトは不安でいっぱいでした。でも機内に入ってみると、一人ひとりの席に映画や音楽が聴ける画面がついていて、毛布やクッションも用意されていたので、意外と快適に楽しく過ごせるのではと、ワクワクした気持ちにかわってきました。離陸して、少し時間がたつと、私が楽しみにしていた「機内食」が出てきて、さらに気持ちが高ぶりました。「機内食」は乗る飛行機によって出てくるものが違ったので驚きました。慣れない機内なので、なかなかぐっすり眠ることができなかったり、トイレに行きづらかったり大変なこともありました。しかし、着陸が近くなって、窓から見える日本とは違う景色を見られたときは、とても興奮しました。友達と長い時間、楽しくお話して過ごしたこともいい思い出です。

二つ目は食文化です。オーストラリアでは、朝食、昼食、夕食に加えて、「モーニングティー」と「アフタヌーンティー」があるそうで、一日五食べます。モーニングティーに、スイカと拳一つ分ぐらいのパイを食べ、昼食に大きいハンバーガーを食べた日もあり、私はこれ以上、お腹に入らなかったので、一日四食が限界でした。また、人生で初めて、ワニやエミューの肉を食べました。思ったより食べやすかったです。英語を使って一緒に料理する機会もありました。現地の人の食事について教えてもらったり、好きな食べ物について話したり、少しずつコミュニケーションがとることができて楽しかったです。

三つ目は、ブルームで五日目に開かれた交流会でのパフォーマンスです。私たちは「世界に一つだけの花」という曲を日本語で歌いました。どれだけの人が知っているのかわからない曲でもあったので、シーンとしてしまったらどうしようという気持ちは正直ありました。でも、本番はそうではありませんでした。ブルームの生徒のみなさんが、ステージに来てくれて、盛り上げてくれたからです。日本の曲に合わせて、バックダンサーとして、たくさんの生徒たちが即興で、ダンスをしてくれました。そのおかげで、自分たちの緊張もほぐれたし、楽しく笑顔で歌うことができたと思います。あの時、ブルームのみんながいなかったら、自信を持てず、声も小さくなっていたと思います。姉妹都市として長年の交流によって生まれた親しさや絆が安心して歌う勇気にもつながったのではないかと感じました。ブルームの生徒のみなさんには、本当に感謝の気持ちでいっぱいです。

今回のオーストラリア派遣交流事業を通して、初めてのことが多く、不安もあったけれど、たくさんのことを経験する中で、たくさんの感動と気づきがありました。特に現地の人や友達との交流を通して、言葉や文化が違っていても、相手を知ろうとする気持ちや自分から積極的に関わることが大切だと改めて感じました。初めて見る景色や食べ物、現地の人との会話など、一つひとつの経験がとても新鮮で、今まで知らなかった世界を知ることができました。オーストラリアの経験で得たこと、感じたことをこれからの生活の中でいかし、さまざまなことに興味を持つ姿勢を大切にし、自分から挑戦する気持ちを忘れずに過ごしていきたいと強く思いました。

貴重な経験をありがとうございました。



セント・メアリーズ・カレッジ小学部との交流


フリーマントルのマリタイムミュージアムで海野さんと


ブルームのワニ園で観光


パースのサッカー場でセリエＡの試合を見学


歓迎レセプションで全体写真